

今日のみことば

□ 12月17日(日) 申命記 5章

神はホレブの山で契約の十誡を与えられました。主はイスラエルの神であり、エジプトから彼らをあがない出された神であるゆえに、神はイスラエルに律法を与えられた。

□ 12月18日(月) 申命記 6章

神のみ言葉を自分の日々の生活に関連づける助けとなる模範が示されている。それは神を愛し、神の戒めを思い巡らし、その戒めを自分の子たちに教え、み言葉に従って生きること。

□ 12月19日(火) 申命記 7章

約束の地において聖なるイスラエルの民がそのように生きるべきか、異邦の民にどのように対処すべきかが述べられている罪に対して神は少しも妥協を許されない。

□ 12月20日(水) 申命記 8章

モーセは神の恵み、約束、ご性格を覚えるようにと勧め、荒野での40年間の試みと、繁栄にまつわる危機に対する警告が教えられている。

□ 12月21日(木) 申命記 9章

モーセはここでイスラエルの民が、過去の罪と失敗を思い出して、謙遜になる必要を改めて説きました。真理は、しばしば耳に痛く、口に苦いものである。

□ 12月22日(金) 申命記 10章

モーセは目的なしに過去を述べることはない。神がなされたすべてのことを考えるなら、神が律法を尊び、これに服従することを要求することは決して無理なことではない。

□ 12月23日(土) 申命記 11章

モーセは彼らに従順であるべき理由を指摘しました。それは神の偉大さと、奇跡であり、祝福は神への従順の結果与えられる。神の律法に服従する道は、いのちに通じる。

ろ ぼ No. 1846
2017年 12月17日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

救い主イエス・キリストの誕生を知り、東方の国の占星術の学者たちは、それぞれが持ち寄った最高の贈り物を、幼子イエスに献げました。最初のクリスマスに起こった喜びの光景です。

神さまの、約束の実現を知った人たちがどのようにしてその喜びを表したのでしょうか。最初に馬小屋を訪れた羊飼いたちは、形あるものをお持ちはしませんでした。天使の喜びの知らせをしっかりと受け止め、信じて神さまあがめ賛美を献げました。ヨセフとマリヤは、その光栄を信仰を持って受け止め、すべてを神さまにお献げしてみ言葉に従いました。天の父なる神さまは、私たちに最大の贈り物を下さいました。その独り子イエスを、私たちの罪の贖いのた

マタイ 2:11

家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金乳香、没薬を贈り物として献げた。

めに贈られたと言うことです。このことを通して私たちはクリスマスを心から喜び祝わさせていただくのです。

東方の学者たちは、救い主誕生を喜び、幼子イエスに最上の贈り物を献げましたが、実はクリスマスは神さまが、私たちに最大の贈り物を下さったことを喜ぶ祝いの日だと、知っておられましたか。

パリサイ派の学者の一人がイエスに「律法の中でどの掟が最も重要でしょうか」と尋ねたときイエスは「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい』これが最も重要は第一の掟である。第二もこれと同じよう

に重要である『隣人を自分のように愛しなさい』』と答えられました(マタイ22:34-40)。私はこれが神さまからのクリスマスの贈り物に対する返礼ではないかと思っています。

イエスは私たちに祈りの言葉を教えてくださいました。そこでイエスはこのように教えられました。「私たちの負い目を赦してください。私たちも自分に負い目ある人を赦しましたように」(マタイ6:12)と。私はしばしばこの祈りの空しさを、出来得ていない自分を覚えさせられることがあります。しかしそうであってはならないのです。イエスの来臨と十字架は、このことを通して、私たちの主に対するまことの贈り物を献げる機会を整えてくださるのです。こんなおこがましい祈りを受け止め御子イエスを送ってくださいました。しっかりそれにお答えするのが私たちの日々なのです。

パウロは「兄弟たちよ、わたしが以前あなたがたに伝えた福音、あなたがたが受け入れ、それによって立ってきた福音を、思い起こしてもらいたい・・・わたしが宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである」(コリント15:1-5)と語りました。クリスマスの贈り物・主イエスをしっかりと受け止めて、喜びの中に生きるそれは、み言葉を生きることです。

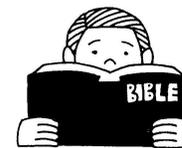
神さまからの贈り物をいただいた私たちは、どのようにしてその慈しみにお応えするのでしょうか。感謝してその御名をほめたたえるのみです。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」(ルカ2:14)と賛美します。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

ルカ 2:1-21 飼い葉桶の中から

主イエスの誕生の次第を、福音書で聞かせていただきながら私は今一度、天の使いの言葉を聞かせていただきます。「恐れるな。わたしは民全体に与えられる大きな喜びを伝える。今日ダビデの町に、あなたがたのために救い主がお生まれになったこの方こそ主メシアである」と。

何度聞いても、伝えられた知らせは、救い主の誕生の知らせです。それは貧しい野の羊飼いや、東方の異国の学者にまで伝えられた知らせです。「民全体」への知らせです。聞かなかったとは、知らなかったとは言えることはできません。私はパウロが、「神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたからです。・・・彼らには弁解の余地はありません」(ロマ2:18-21)と語ったことを思い出しています。しっかり耳を開いて聞かなければなりませんし、聞き漏らされないように伝えることも、私たちの責任でしょう。



Read God's Word.